問１　次の記述は、医薬品の本質に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

ａ　殺虫剤など人体に対して使用されない医薬品は、人体がそれに曝（さら）されても健康を害するおそれはない。
ｂ　医薬品は、市販後にも、医学・薬学等の新たな知見、使用成績等に基づき、その有効性、安全性等の確認が行われる仕組みになっている。
ｃ　医薬品医療機器等法では、健康被害の発生の可能性の有無にかかわらず、異物等の混入、変質等がある医薬品を販売等してはならない旨を定めている。
ｄ　一般用医薬品は、医薬品医療機器等法の対象となるが、製造物責任法の対象とはならない。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｄ）　３（ｂ、ｃ）　４（ｃ、ｄ）

問２　医薬品のリスク評価に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　医薬品の効果とリスクは、用量と作用強度の関係（用量−反応関係）に基づいて評価される。
ｂ　薬物用量が治療量上限を超えると、やがて効果よりも有害反応が強く発現する「中毒量」となり、「最小致死量」を経て、「致死量」に至る。
ｃ　少量の投与であれば、長期投与された場合でも毒性が発現することはない。
ｄ　動物実験により求められる５０％致死量（LD_{50}）は、薬物の毒性の指標として用いられる。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
１	正	正	正	正
２	誤	正	正	正
３	正	誤	正	正
４	正	正	誤	正
５	正	正	正	誤

問３　健康食品に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　健康増進や維持の助けになることが期待されるいわゆる「健康食品」は、あくまで食品であり、医薬品とは法律上区別される。
ｂ　「栄養機能食品」は、身体の健全な成長や発達、健康維持に必要な栄養成分（ビタミン、ミネラルなど）の補給を目的としたもので、国が定めた規格基準に適合したものであれば、その栄養成分の健康機能を表示できる。
ｃ　「特定保健用食品」は、事業者の責任で科学的根拠をもとに疾病に罹患していない者の健康維持及び増進に役立つ機能を商品のパッケージに表示するものとして国に届出された商品であるが、国の個別の許可を受けたものではない。
ｄ　いわゆる健康食品は、医薬品との相互作用で薬物治療の妨げになることがある。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
１	正	正	誤	正
２	誤	正	正	誤
３	正	誤	正	正
４	誤	正	誤	正
５	正	誤	正	誤

問４　セルフメディケーションに関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

１　地域住民の健康相談を受け、一般用医薬品の販売や必要な時に医療機関の受診を勧める業務は、セルフメディケーションの推進に欠かせない業務である。
２　適切な健康管理の下で医療用医薬品からの代替を進める観点から、セルフメディケーション税制が導入された。
３　セルフメディケーション税制は、条件を満たした場合に、税制の対象となるＯＴＣ医薬品の購入の対価について、一定の金額をその年分の総所得金額等から控除する制度である。
４　セルフメディケーション税制の対象となる一般用医薬品は、スイッチＯＴＣ医薬品のみである。

問５　以下の医薬品の副作用に関する記述について、（　　）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

世界保健機関（ＷＨＯ）の定義によれば、医薬品の副作用とは、「疾病の予防、（　ａ　）、治療のため、又は身体の機能を正常化するために、人に（　ｂ　）量で発現する医薬品の有害かつ（　ｃ　）反応」とされている。

	ａ	ｂ	ｃ
１	診断	用いられる最小	意図しない
２	検査	通常用いられる	予測できる
３	検査	用いられる最小	予測できる
４	診断	通常用いられる	予測できる
５	診断	通常用いられる	意図しない

問６　免疫、アレルギー（過敏反応）に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　免疫は、細菌やウイルスなどが人体に取り込まれたとき、人体を防御するために生じる反応である。
ｂ　医薬品の有効成分だけでなく、基本的に薬理作用がない添加物も、アレルギーを引き起こす原因物質になり得る。
ｃ　アレルギーには、体質的・遺伝的な要素はない。
ｄ　医薬品の中には、鶏卵や牛乳を原材料として作られているものがあるため、それらに対するアレルギーがある人では使用を避けなければならない場合もある。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
１	正	正	正	正
２	誤	正	正	正
３	正	誤	正	正
４	正	正	誤	正
５	正	正	正	誤

問７　医薬品の使用等に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　医薬品の乱用の繰り返しによって、慢性的な臓器障害等を生じるおそれがある。
ｂ　一般用医薬品には、習慣性・依存性がある成分は含まれていない。
ｃ　便秘薬や解熱鎮痛薬などはその時の不快な症状を抑えるための医薬品であり、長期連用すれば、重篤な疾患の発見が遅れる可能性がある。
ｄ　使用する人の誤解や認識不足に起因する不適正な使用を防止するには、医薬品の販売等に従事する専門家が、購入者等に対して、正しい情報を伝えていくことが重要である。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
1	正	正	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	誤	正	誤
5	正	誤	誤	正

問８　乳児、小児の医薬品使用に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

1　小児は、大人と比べて肝臓や腎臓の機能が未発達であるため、医薬品の成分の代謝・排泄(せつ)に時間がかかる。
2　小児は、大人と比べて身体の大きさに対して腸が短く、服用した医薬品の吸収率が相対的に低い。
3　錠剤、カプセル剤等は、小児、特に乳児にそのまま飲み下させることが難しいことが多い。
4　乳児向けの用法用量が設定されている医薬品であっても、基本的には医師の診療を受けることが優先され、一般用医薬品による対処は最小限にとどめるのが望ましい。

問９　高齢者とその医薬品使用に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

１　基礎体力や生理機能の衰えの度合いの個人差はほとんどない。
２　一般に生理機能が衰えつつあり、若年時と比べて副作用を生じるリスクが高くなる。
３　医薬品の説明を理解するのに時間がかかる場合や、添付文書や製品表示の記載を読み取るのが難しい場合があり、情報提供や相談対応において特段の配慮が必要となる。
４　医薬品の副作用で口渇を生じることがあり、誤嚥（えん）を誘発しやすくなるので注意が必要である。

問10　次の記述は、妊婦又は妊娠していると思われる女性の医薬品使用に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

ａ　ビタミンＡ含有製剤は、妊娠前後の一定期間に通常の用量を超えて摂取すると胎児に先天異常を起こす危険性が高まるとされている。
ｂ　妊婦は、体の変調や不調を起こしやすいため、一般用医薬品の使用を積極的に促すべきである。
ｃ　母体が医薬品を使用した場合に、血液-胎盤関門によって、どの程度医薬品の成分の胎児への移行が防御されるかは、すべて解明されている。
ｄ　便秘薬には、配合成分やその用量によっては流産や早産を誘発するおそれがあるものがある。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｄ）　３（ｂ、ｃ）　４（ｃ、ｄ）

問11　一般用医薬品の使用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　生活習慣病等の慢性疾患では、一般用医薬品を使用することでその症状が悪化することはない。
b　医療機関で治療を受ける際には、使用している一般用医薬品の情報を医療機関の医師や薬局の薬剤師等に伝えるよう購入者等に説明することが重要である。
c　医療機関での治療を特に受けていない場合であっても、医薬品の種類や配合成分等によっては、特定の症状がある人が使用するとその症状を悪化させるおそれがある。
d　一般用医薬品は、通常、その使用を中断することによる不利益よりも、重大な副作用を回避することが優先され、その兆候が現れたときには基本的に使用を中止することとされている。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	誤	正	正	正
3	正	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	正	誤	誤	正

問12　医薬品の品質に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　医薬品の外箱等に記載されている使用期限は、未開封状態で適切に保管された場合に品質が保持される期限である。
b　一般用医薬品は、家庭における常備薬として購入されることも多いことから、外箱等に記載されている使用期限から十分な余裕をもって販売がなされることが重要である。
c　配合されている成分には、高温や多湿、光によって品質の劣化を起こしやすいものが多い。
d　医薬品は、適切な保管・陳列がなされると、経時変化による品質の劣化は起こらない。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	誤	正	正	誤
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	正
5	正	誤	誤	正

問13　適切な医薬品選択と受診勧奨に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

1　一般用医薬品の販売等に従事する専門家は、購入者等に対して常に科学的な根拠に基づいた正確な情報提供を行い、セルフメディケーションを適切に支援していくことが期待されている。
2　軽度の症状について一般用医薬品を使用して対処した場合であっても、一定期間若しくは一定回数使用しても症状の改善がみられない又は悪化したときには、医療機関を受診して医師の診療を受ける必要がある。
3　乳幼児や妊婦では、通常の成人の場合に比べ、一般用医薬品で対処可能な範囲は限られる。
4　一般用医薬品には、使用してもドーピングに該当する成分を含んだものはない。

問14　以下の医薬品医療機器等法第４条第５項第４号に規定されている一般用医薬品の定義に関する記述について、（　　）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

医薬品のうち、その効能及び効果において人体に対する作用が（　　ａ　　）ものであって、（　　ｂ　　）情報に基づく需要者の選択により使用されることが目的とされているもの（要指導医薬品を除く。）

	ａ	ｂ
１	著しい	薬剤師その他の医薬関係者から提供された
２	緩やかな	自ら取得した
３	緩やかな	薬剤師その他の医薬関係者から提供された
４	著しくない	薬剤師その他の医薬関係者から提供された
５	著しくない	自ら取得した

問15　一般用医薬品の役割に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　重度な疾病に伴う症状の改善
ｂ　健康状態の自己検査
ｃ　生活の質（ＱＯＬ）の改善・向上
ｄ　健康の維持・増進

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
１	正	正	正	正
２	誤	正	正	正
３	正	誤	正	正
４	正	正	誤	正
５	正	正	正	誤

問16　医薬品の販売時に専門家が購入者から確認しておきたい基本的なポイントに関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　その医薬品を使用する人として、小児や高齢者、妊婦等が想定されるか。
ｂ　その医薬品を使用する人が過去にアレルギーや医薬品による副作用等の経験があるか。
ｃ　その医薬品を使用する人が医療機関で治療を受けていないか。
ｄ　何のためにその医薬品を購入しようとしているか（購入者等のニーズ、購入の動機）。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	正	正	正	誤

問17　次の記述は、医薬品の販売時のコミュニケーションに関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

ａ　購入者側に情報提供を受けようとする意識が乏しい場合にあっては、コミュニケーションを取らなくてもよい。
ｂ　購入者等が医薬品を使用する状況は、随時変化する可能性があるが、販売時のコミュニケーションの機会が継続的に確保されるよう配慮する必要はない。
ｃ　一般用医薬品の場合、必ずしも情報提供を受けた当人が医薬品を使用するとは限らないことを踏まえ、販売時のコミュニケーションを考える必要がある。
ｄ　情報提供を受ける購入者等が医薬品を使用する本人で、かつ、現に症状等がある場合には、その人の状態や様子全般から得られる情報も、状況把握につながる重要な手がかりとなる。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ｂ、ｄ）　４（ｃ、ｄ）

問18　サリドマイド製剤及びサリドマイド訴訟に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　サリドマイド製剤は、血管新生を促進する作用がある。
ｂ　サリドマイド訴訟とは、サリドマイド製剤を妊娠している女性が使用したことにより、出生児に四肢欠損、耳の障害等の先天異常が発生したことに対する損害賠償訴訟である。
ｃ　日本では、西ドイツ（当時）の企業から勧告や警告が発せられていたにもかかわらず、出荷停止や販売停止、回収措置等の対応の遅さが問題視された。
ｄ　サリドマイドの薬害事件によって、世界保健機関（ＷＨＯ）加盟国を中心に市販後の副作用情報の収集の重要性が改めて認識され、各国における副作用情報の収集体制の整備が図られることとなった。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
1	誤	誤	正	正
2	正	正	誤	正
3	誤	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	正	誤	誤	誤

問19　次の記述は、亜急性脊髄視神経症（スモン）及びスモン訴訟に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

ａ　スモンの症状は、初期には腹部の膨満感から激しい腹痛を伴う下痢を生じ、次第に下半身の痺（しび）れや脱力、歩行困難等が現れる。
ｂ　スモン患者に対しては、施術費及び医療費の自己負担分の公費負担や重症患者に対する介護事業等が講じられている。
ｃ　スモン訴訟により、緊急に必要とされる医薬品を迅速に供給するための「緊急輸入」制度が創設された。
ｄ　スモン訴訟により、血液製剤の安全確保対策として検査や献血時の問診の充実が図られた。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ｂ、ｄ）　４（ｃ、ｄ）

問20　ヒト免疫不全ウイルス（ＨＩＶ）及びＨＩＶ訴訟に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

１　血友病患者が、ＨＩＶが混入したアルブミン製剤の投与を受けたことにより、ＨＩＶに感染したことに対する損害賠償訴訟である。
２　ＨＩＶに感染することにより、認知症に類似した症状が現れ、死に至る重篤な神経難病となる。
３　国は、ＨＩＶ訴訟の和解を踏まえ、エイズ治療・研究開発センター及び拠点病院の整備や治療薬の早期提供等の様々な取り組みを推進してきている。
４　ＨＩＶ訴訟を契機として、医薬品副作用被害救済制度が創設された。

問21　第１欄の記述は、かぜ薬として使用される漢方処方製剤に関するものである。第１欄の記述に該当する漢方処方製剤として正しいものは第２欄のどれか。

第１欄
体力中等度又はやや虚弱で、多くは腹痛を伴い、ときに微熱・寒気・頭痛・吐きけなどのあるものの胃腸炎、かぜの中期から後期の症状に適すとされる。

第２欄
１　桂枝湯（けいしとう）　２　小青竜湯（しょうせいりゅうとう）　３　柴胡桂枝湯（さいこけいしとう）　４　麻黄湯（まおうとう）
５　香蘇散（こうそさん）

問22　次の表は、あるかぜ薬に含まれている成分の一覧である。

９錠中	
アセトアミノフェン	９００ｍｇ
クレマスチンフマル酸塩	１．３４ｍｇ
ジヒドロコデインリン酸塩	２４ｍｇ
ノスカピン	４８ｍｇ
dl－メチルエフェドリン塩酸塩	６０ｍｇ
グアヤコールスルホン酸カリウム	２４０ｍｇ
無水カフェイン	７５ｍｇ
ベンフォチアミン	２４ｍｇ

この一般用医薬品に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　クレマスチンフマル酸塩は、抗アドレナリン作用によって鼻汁分泌やくしゃみを抑えることを目的として配合されている。
ｂ　ノスカピンは、鎮咳（がい）作用を目的として配合されている。
ｃ　グアヤコールスルホン酸カリウムは、去痰（たん）作用を目的として配合されている。
ｄ　ベンフォチアミンには疲労回復の作用がある。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
1	正	誤	正	正
2	正	誤	誤	誤
3	正	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	正	正	正

問23　以下の解熱鎮痛薬に関する記述について、（　　）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

解熱鎮痛成分により末梢におけるプロスタグランジンの産生が（　a　）されると、腎血流量が（　b　）するため、腎機能に障害があると、その症状を悪化させる可能性がある。

また、胃酸分泌が（　c　）するとともに胃壁の血流量が低下して、胃粘膜障害を起こしやすくなる。そうした胃への悪影響を軽減するため、なるべく（　d　）を避けて服用することとなっている場合が多い。

	a	b	c	d
1	促進	増加	減少	食後
2	促進	増加	増加	空腹時
3	促進	減少	増加	食後
4	抑制	減少	増加	空腹時
5	抑制	減少	減少	空腹時

問24　解熱鎮痛薬の配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　アセトアミノフェンは、主として中枢作用によって解熱・鎮痛をもたらすため、末梢における抗炎症作用は期待できない。
b　エテンザミドは、作用の仕組みの違いによる相乗効果を期待して、他の解熱鎮痛成分と組み合わせて配合されることが多い。
c　シャクヤクは、発汗を促して解熱を助ける作用を期待して配合される。
d　ブロモバレリル尿素は、解熱鎮痛成分の鎮痛作用を助ける目的で配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	正
5	誤	正	正	正

問25　眠気を防ぐ薬の配合成分に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

1　カフェインの作用には、腎臓におけるナトリウムイオンの再吸収抑制があり、尿量の増加をもたらす。
2　吸収されて循環血液中に移行したカフェインの一部は、血液-胎盤関門を通過して胎児に到達する。
3　授乳中の女性がカフェインを大量に摂取したり、カフェインを連用したりした場合には、乳児の体内にカフェインが蓄積して、徐脈を引き起こす可能性がある。
4　眠気による倦(けん)怠感を和らげる補助成分として、ニコチン酸アミドが配合されている場合がある。

問26　乗物酔い防止薬の配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　ジプロフィリンは、排尿困難の症状がある人や緑内障の診断を受けた人では、その症状を悪化させるおそれがある。
b　プロメタジンを含む成分については、外国において、乳児突然死症候群や乳児睡眠時無呼吸発作のような致命的な呼吸抑制を生じたとの報告があるため、１５歳未満の小児では使用を避ける必要がある。
c　スコポラミン臭化水素酸塩水和物は、肝臓で代謝されにくいため、抗ヒスタミン成分と比べて作用の持続時間は長い。
d　脳に軽い興奮を起こさせて平衡感覚の混乱によるめまいを軽減させることを目的として、アリルイソプロピルアセチル尿素が配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	正
3	誤	正	誤	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

問27　次の表は、ある小児鎮静薬に含まれている成分の一覧である。

１日量（６０粒中）	
ジャコウ	１．０ｍｇ
ゴオウ	９．０ｍｇ
レイヨウカク	３０．０ｍｇ
ギュウタン	１２．０ｍｇ
ニンジン	１１０．０ｍｇ
オウレン	６０．０ｍｇ
カンゾウ	６０．０ｍｇ
チョウジ	９．０ｍｇ

この一般用医薬品に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　ジャコウは、緊張や興奮を鎮め、また、血液の循環を促す作用を期待して用いられる。
ｂ　チョウジは、香りによる健胃作用を期待して用いられる。
ｃ　カンゾウは、他の医薬品等から摂取されるグリチルリチン酸も含め、その総量が継続して多くならないよう注意されるべきである。
ｄ　ゴオウは、緊張や興奮を鎮め、また、血液の循環を促す作用を期待して用いられる。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
1	正	正	正	正
2	正	誤	誤	誤
3	正	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問28　咳(せき)や痰(たん)が生じる仕組み及び鎮咳(ちんがい)去痰(きょたん)薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　ジヒドロコデインリン酸塩を含む医薬品は、１２歳未満の小児等への使用は禁忌である。
b　咳(せき)は、気管や気管支に何らかの異変が起こったときに、その刺激が中枢神経系に伝わり、延髄にある咳嗽中枢(がいそうちゅうすう)の働きによって引き起こされる反応である。
c　鎮咳(ちんがい)去痰(きょたん)薬には、錠剤、カプセル剤、顆粒剤、散剤、内用液剤、シロップ剤のほか、口腔(くう)咽喉薬の目的を兼ねたトローチ剤やドロップ剤がある。
d　呼吸器官に感染を起こしたときは、気道粘膜からの粘液分泌が減り、その粘液に気道に入り込んだ異物や粘膜上皮細胞の残骸などが混じって痰(たん)となる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

問29　鎮咳(ちんがい)去痰(きょたん)薬に配合される生薬成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　ナンテンジツは、知覚神経・末梢運動神経に作用して咳(せき)止めに効果があるとされる。
b　セネガは、去痰(きょたん)作用を期待して用いられる。
c　バクモンドウは、鎮咳(ちんがい)、去痰(きょたん)、滋養強壮等の作用を期待して用いられる。
d　オンジは、鎮咳(ちんがい)作用を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

問30　次の記述は、口腔咽喉薬及び含嗽薬に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

a　噴射式の液剤は、息を吸いながら噴射すると気管支や肺に入ってしまうおそれがあるため、軽く息を吐きながら噴射することが望ましい。
b　グリチルリチン酸二カリウムは、口腔内や喉に付着した細菌等の微生物を死滅させたり、その増殖を抑えることを目的として用いられる。
c　デカリニウム塩化物は、炎症を生じた粘膜組織の修復を促す作用を期待して配合されている場合がある。
d　クロルヘキシジングルコン酸塩が配合された含嗽薬は、口腔内に傷やひどいただれのある人では、強い刺激を生じるおそれがあるため、使用を避ける必要がある。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｄ）　３（ｂ、ｃ）　４（ｃ、ｄ）

問31　次の記述は、胃腸の薬の配合成分に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

a　リュウタンは、胆汁の分泌を促す作用があるとされ、消化を助ける効果を期待して用いられる。
b　オウバク、オウレン、センブリといった生薬成分が配合された健胃薬は、散剤をオブラートで包む等、味や香りを遮蔽する方法で服用されると効果が期待できない。
c　味覚や嗅覚に対する刺激以外の作用による健胃成分として、乾燥酵母やカルニチン塩化物が配合されている場合がある。
d　スクラルファートは、炭水化物、脂質、タンパク質等の分解に働く酵素を補うことにより、胃や腸の内容物の消化を助けることを目的として用いられる。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｄ）　３（ｂ、ｃ）　４（ｃ、ｄ）

問32　瀉下薬の配合成分に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

1　ヒマシ油は、小腸でリパーゼの働きによって生じる分解物が、小腸を刺激することで瀉下作用をもたらすと考えられている。
2　ピコスルファートナトリウムは、小腸で分解されて、小腸への刺激作用を示す。
3　カルメロースナトリウムは、腸管内で水分を吸収して腸内容物に浸透し、糞便のかさを増やすとともに糞便を柔らかくする。
4　マルツエキスは、主成分である麦芽糖が腸内細菌によって分解して生じるガスによって便通を促すとされる。

問33　止瀉薬の配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　ビスマスを含む成分は収斂作用のほか、腸内で発生した有毒物質を分解する作用も持つとされるため、細菌性の下痢や食中毒のときに使用するとよい。
b　木クレオソートは、過剰な腸管の運動を正常化し、あわせて水分や電解質の分泌も抑える止瀉作用がある。
c　タンニン酸ベルベリンは、牛乳にアレルギーがある人では使用を避ける必要がある。
d　ロペラミド塩酸塩は、中枢神経系を抑制する作用があり、副作用としてめまいや眠気が現れることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

問34　第１欄の記述は、腸の不調を改善する目的で用いられる漢方処方製剤に関するものである。第１欄の記述に該当する漢方処方製剤として正しいものは第２欄のどれか。

第１欄

体力中等度以上で、下腹部痛があって、便秘しがちなものの月経不順、月経困難、月経痛、便秘、痔疾に適すとされるが、体の虚弱な人、胃腸が弱く下痢しやすい人では、激しい腹痛を伴う下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

第２欄

１　桂枝加芍薬湯　　２　人参湯（理中丸）　　３　安中散

４　大黄牡丹皮湯　　５　麻子仁丸

問35　胃腸鎮痛鎮痙薬の配合成分に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

１　パパベリン塩酸塩は、抗コリン成分と異なり自律神経系を介した作用ではないため、眼圧を上昇させる作用を示さない。

２　メチルベナクチジウム臭化物は、消化管の粘膜及び平滑筋に対する麻酔作用による鎮痛鎮痙の効果を期待して配合されている。

３　アミノ安息香酸エチルは、メトヘモグロビン血症を起こすおそれがあるため、１２歳未満の小児への使用は避ける必要がある。

４　オキセサゼインは、局所麻酔作用のほか、胃液分泌を抑える作用もあるとされ、胃腸鎮痛鎮痙薬と制酸薬の両方の目的で使用される。

問36　浣腸薬及びその配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　ビサコジルは、直腸内で徐々に分解して炭酸ガスの微細な気泡を発生することで直腸を刺激する作用を期待して用いられる。
b　グリセリンが配合された浣腸薬は、肛門や直腸の粘膜に損傷があり出血している場合に使用される。
c　ソルビトールは、浸透圧の差によって腸管壁から水分を取り込んで直腸粘膜を刺激し、排便を促す効果を期待して用いられる。
d　腹痛が著しい場合や便秘に伴って吐きけや嘔吐が現れた場合には、急性腹症の可能性があり、浣腸薬の配合成分の刺激によってその症状を悪化させるおそれがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

問37　強心薬に配合される生薬成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　ジンコウは、中枢神経系の刺激作用による気つけの効果を期待して用いられる。
b　１日用量中センソ１ｍｇを超えて含有する医薬品は、劇薬に指定されている。
c　ロクジョウは、強心作用のほか、強壮、血行促進の作用があるとされる。
d　インヨウカクは、強心作用のほか、呼吸中枢を刺激して呼吸機能を高めたり、意識をはっきりさせる作用がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	正	正	誤
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問38　以下の血中コレステロールに関する記述について、（　　）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

コレステロールは細胞の構成成分で、（　　a　　）や胆汁酸等の生理活性物質の産生に重要な物質である。

コレステロールは水に（　　b　　）物質であるため、血液中では血漿（しょう）タンパク質と結合したリポタンパク質となって存在する。リポタンパク質は比重によっていくつかの種類に分類されるが、そのうち（　　c　　）は、コレステロールを肝臓から末梢組織へと運ぶリポタンパク質である。

	a	b	c
1	副腎皮質ホルモン	溶けやすい	高密度リポタンパク質
2	副腎皮質ホルモン	溶けにくい	低密度リポタンパク質
3	副腎皮質ホルモン	溶けにくい	高密度リポタンパク質
4	副腎髄質ホルモン	溶けにくい	低密度リポタンパク質
5	副腎髄質ホルモン	溶けやすい	高密度リポタンパク質

問39　次の記述は、貧血及び貧血用薬の配合成分に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

a　ビタミンＢ６は、消化管内で鉄が吸収されやすい状態に保つことを目的として用いられる。
b　鉄分の摂取不足を生じても、初期にはヘモグロビン量自体は変化せず、ただちに貧血の症状は現れない。
c　コバルトは、ヘモグロビンの産生過程で、鉄の代謝や輸送に重要な役割を持つ。
d　鉄分の吸収は、食後より空腹時のほうが高いとされている。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ｂ、ｄ）　４（ｃ、ｄ）

問40　次のうち、循環器用薬に含まれる成分とその主な作用として、正しいものの組み合わせはどれか。

	成分		主な作用
a	ヘプロニカート	—	高血圧等における毛細血管の補強、強化
b	ルチン	—	遊離したニコチン酸による、末梢の血液循環の改善
c	コウカ	—	末梢の血行を促してうっ血を除く
d	ユビデカレノン	—	心筋の酸素利用効率を高めて、収縮力を高める

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｄ）　３（ｂ、ｃ）　４（ｃ、ｄ）

問41　次の記述は、外用痔疾用薬及びその配合成分に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

a　坐剤及び注入軟膏は、局所に適用されるものであるため、全身的な影響を考慮する必要はない。
b　アミノ安息香酸エチルは、局所麻酔成分として痔に伴う痛み・痒みを和らげることを目的として用いられる。
c　ジフェンヒドラミンは、痔に伴う痒みを和らげることを目的として用いられる。
d　セチルピリジニウム塩化物は、肛門部の創傷の治癒を促す効果を期待して配合される組織修復成分である。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｄ）　３（ｂ、ｃ）　４（ｃ、ｄ）

問42　内用痔疾用薬の配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　セイヨウトチノミは、殺菌作用を期待して配合される。
b　カルバゾクロムは、止血効果を期待して配合される。
c　ビタミンＥは、うっ血を改善する効果を期待して配合される。
d　オウゴンは、抗炎症作用を期待して配合される。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問43　泌尿器用薬として用いられる生薬成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　ウワウルシは、尿路の殺菌消毒効果を期待して用いられる。
b　カゴソウは、利尿作用を期待して用いられる。
c　キササゲは、利尿作用を期待して用いられる。
d　モクツウは、利尿作用を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問44　婦人薬として用いられる主な漢方処方製剤に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　加味逍遙散は体力中等度以下で、手足がほてり、唇が乾くものの月経不順、月経困難、こしけ（おりもの）、更年期障害、不眠、神経症、湿疹・皮膚炎、足腰の冷え、しもやけ、手あれ（手の湿疹・皮膚炎）に適すとされるが、胃腸の弱い人では、不向きとされる。

b　五積散は、体力虚弱で、冷え症で皮膚が乾燥、色つやの悪い体質で胃腸障害のないものの月経不順、月経異常、更年期障害、血の道症、冷え症、しもやけ、しみ、貧血、産後あるいは流産後の疲労回復に適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸の弱い人、下痢しやすい人では、胃部不快感、腹痛、下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

c　当帰芍薬散は、体力中等度又はやや虚弱で、冷えがあるものの胃腸炎、腰痛、神経痛、関節痛、月経痛、頭痛、更年期障害、感冒に適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸の弱い人、発汗傾向の著しい人では、不向きとされる。

d　桂枝茯苓丸は、比較的体力があり、ときに下腹部痛、肩こり、頭重、めまい、のぼせて足冷えなどを訴えるものの、月経不順、月経異常、月経痛、更年期障害、血の道症、肩こり、めまい、頭重、打ち身（打撲症）、しもやけ、しみ、湿疹・皮膚炎、にきびに適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）では不向きとされる。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

問45　抗ヒスタミン成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　クロルフェニラミンマレイン酸塩は、肥満細胞から遊離したヒスタミンが受容体と反応するのを妨げることにより、抗ヒスタミン作用を示す。
ｂ　抗ヒスタミン成分は、抗コリン作用を示さず、排尿困難の副作用が現れることはない。
ｃ　ジフェンヒドラミン塩酸塩は、吸収されたジフェンヒドラミンの一部が乳汁に移行して乳児に昏睡を生じるおそれがある。
ｄ　メキタジンは、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）、肝機能障害、血小板減少を生じることがある。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
１	誤	誤	誤	正
２	正	正	誤	誤
３	誤	誤	正	誤
４	正	誤	正	正
５	誤	正	正	誤

問46　次の記述は、アレルギー及びアレルギー用薬（鼻炎用内服薬を含む。）に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

ａ　一般用医薬品のアレルギー用薬は、一時的な症状の緩和に用いられるが、５～６日間使用しても症状の改善がみられない場合であっても、医師の診療を受ける必要はない。
ｂ　一般用医薬品のアレルギー用薬には、アトピー性皮膚炎による慢性湿疹（しん）の治療に用いることを目的とするものがある。
ｃ　アレルギー用薬と鼻炎用点鼻薬には、同じ成分又は同種の作用を有する成分が重複することがあり、それらは相互に影響し合わないとの誤った認識に基づいて、併用されることのないよう注意が必要である。
ｄ　皮膚症状が治まると喘（ぜん）息が現れるというように、種々のアレルギー症状が連鎖的に現れることがある。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ｂ、ｄ）　４（ｃ、ｄ）

問47　鼻炎用点鼻薬の配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　アドレナリン作動成分が配合された点鼻薬は、過度に使用されると鼻粘膜の血管が反応しなくなり、鼻づまりがひどくなりやすい。
b　鼻粘膜の炎症を和らげることを目的として、グリチルリチン酸二カリウムが配合されている場合がある。
c　ベンザルコニウム塩化物は、黄色ブドウ球菌、溶血性連鎖球菌及び結核菌に対する殺菌消毒作用を示す。
d　鼻粘膜の過敏性や痛みや痒(かゆ)みを抑えることを目的として、リドカイン塩酸塩が配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

問48　次の記述は、眼科用薬の配合成分に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

a　イプシロン-アミノカプロン酸は、炎症の原因となる物質の生成を抑える作用を示し、目の炎症を改善する効果を期待して用いられる。
b　ネオスチグミンメチル硫酸塩は、結膜を通っている血管を収縮させて目の充血を除去することを目的として、配合されている場合がある。
c　パンテノールは、末梢の微小循環を促進させることにより、結膜充血、疲れ目の症状を改善する効果を期待して用いられる。
d　アスパラギン酸カリウムは、新陳代謝を促し、目の疲れを改善する効果を期待して、配合されている場合がある。

1（a、b）　2（a、d）　3（b、c）　4（c、d）

問49　殺菌消毒成分に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

１　アクリノールは、黄色ブドウ球菌に対する殺菌消毒作用を示す。
２　オキシドール（過酸化水素水）は、黄色ブドウ球菌に対する殺菌消毒作用を示す。
３　イソプロピルメチルフェノールは、細菌や真菌類のタンパク質を変性させることにより殺菌消毒作用を示す。
４　ベンザルコニウム塩化物は、石けんとの混合により殺菌消毒効果が高まる。

問50　皮膚に用いる薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　皮膚に温感刺激を与え、末梢血管を収縮させて患部の血行を促す効果を期待して、カプサイシンが配合されている場合がある。
ｂ　ケトプロフェンが配合された外皮用薬を使用している間及び使用後は、当分の間、塗布部が紫外線に当たるのを避ける必要がある。
ｃ　インドメタシンを主薬とする外皮用薬には、１１歳未満の小児向けの製品はない。
ｄ　ステロイド性抗炎症成分を含有する外皮用の一般用医薬品は、広範囲に生じた皮膚症状を対象とするものである。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
１	正	正	誤	誤
２	誤	誤	誤	正
３	正	正	正	正
４	正	誤	正	誤
５	誤	正	正	誤

問51　歯痛・歯槽膿(のう)漏薬の配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　炎症を起こした歯周組織の修復を助け、また、毛細血管を強化して炎症による腫れや出血を抑える効果を期待して、アスコルビン酸が配合されている場合がある。
b　抗炎症、抗菌などの作用を期待して、カミツレが用いられる。
c　炎症を起こした歯周組織からの出血を抑える作用を期待して、チモールが配合されている場合がある。
d　炎症を起こした歯周組織の修復を促す作用のほか、歯肉炎に伴う口臭を抑える効果も期待して、銅クロロフィリンナトリウムが配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	誤

問52　口内炎及び口内炎用薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　一般用医薬品の副作用として口内炎が現れることがある。
b　口内炎は、通常であれば１～２週間で自然寛解する。
c　フィトナジオンは、患部からの細菌感染防止を目的として配合されている場合がある。
d　シコンは、組織修復促進や抗菌などの作用を期待して配合される。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	誤

問53　禁煙補助剤に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　咀嚼剤を噛む際は、なるべく多くの唾液が分泌されるように噛む必要がある。
b　口腔内が酸性になるとニコチンの吸収が増加するため、口腔内を酸性にする食品を摂取した後しばらくは咀嚼剤の使用を避けることとされている。
c　禁煙に伴うイライラ感、集中困難、落ち着かないなどのニコチン離脱症状は、通常、禁煙開始から１～２週間の間に起きることが多い。
d　アドレナリン作動成分が配合された医薬品（鎮咳去痰薬、鼻炎用薬、痔疾用薬等）との併用により、その作用を減弱させるおそれがある。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	正	正	誤
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	誤	正
5	誤	正	正	正

問54　ビタミン成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　ビタミンＡは、夜間視力を維持したり、皮膚や粘膜の機能を正常に保つために重要な栄養素である。
b　ビタミンＢ１は、炭水化物からのエネルギー産生に不可欠な栄養素で、腸管運動を促進する働きがある。
c　ビタミンＣの過剰症として、高カルシウム血症と異常石灰化がある。
d　ビタミンＤは、赤血球の形成を助け、また、神経機能を正常に保つために重要な栄養素である。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	正	正	誤	誤

問55　滋養強壮保健薬の配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　ヘスペリジンは、肝臓の働きを助け、肝血流を促進する働きがあり、全身倦(けん)怠感や疲労時の栄養補給を目的として配合されている場合がある。
ｂ　ガンマ-オリザノールは、米油及び米胚芽油から見出された抗酸化作用を示す成分である。
ｃ　ハンピは、イネ科のハトムギの種皮を除いた種子を基原とする生薬で、肌荒れやいぼに用いられる。
ｄ　アスパラギン酸ナトリウムは、皮膚におけるメラニンの生成を抑えるとともに、皮膚の新陳代謝を活発にしてメラニンの排出を促す働きがある。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
１	正	正	誤	正
２	正	誤	正	誤
３	誤	正	正	誤
４	誤	誤	正	正
５	誤	正	誤	誤

問56　第１欄の記述は、漢方処方製剤の適用となる症状・体質、主な副作用に関するものである。第１欄の記述に該当する漢方処方製剤として正しいものは第２欄のどれか。

第１欄

体力中等度以上で、のぼせぎみで顔色赤く、いらいらして落ち着かない傾向のあるものの鼻出血、不眠症、神経症、胃炎、二日酔い、血の道症、めまい、動悸(き)、更年期障害、湿疹(しん)・皮膚炎、皮膚のかゆみ、口内炎に適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）では不向きとされる。まれに重篤な副作用として肝機能障害、間質性肺炎、腸間膜静脈硬化症が起こることが知られている。

第２欄

１　黄連解毒湯(おうれんげどくとう)
２　防已黄耆湯(ぼういおうぎとう)
３　防風通聖散(ぼうふうつうしょうさん)
４　小柴胡湯(しょうさいことう)
５　清上防風湯(せいじょうぼうふうとう)

問57　生薬成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　サンザシは、鎮痛、抗菌の作用を期待して用いられる。
b　ブクリョウは、解熱、鎮痙（けい）の作用を期待して用いられる。
c　ブシは、心筋の収縮力を高めて血液循環を改善する作用を期待して用いられる。
d　サイコは、抗炎症、鎮痛の作用を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	誤

問58　感染症及び消毒薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　一般に、夏はウイルスによる食中毒が、冬は細菌による食中毒が発生することが多いと言われている。
b　殺菌・消毒とは、物質中のすべての微生物を殺滅又は除去することである。
c　イソプロパノールのウイルスに対する不活性効果はエタノールよりも低い。
d　次亜塩素酸ナトリウムは有機物の影響を受けやすいので、殺菌消毒の対象物を洗浄した後に使用した方が効果的である。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	誤	正

問59　次の１～５で示される殺虫成分のうち、有機リン系殺虫成分に分類されるものはどれか。

１　フェノトリン
２　オルトジクロロベンゼン
３　プロポクスル
４　ダイアジノン
５　メトキサジアゾン

問60　尿糖・尿タンパク検査薬の使用に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

１　激しい運動の直後は、尿タンパク検査を避ける必要がある。
２　中間尿を採取して検査することが望ましい。
３　採尿後は、速やかに検査することが望ましい。
４　検査薬を長時間尿に浸す必要がある。